東京ジャーミイ金曜日のホタバ

2005 年 11 月 11 日

信仰における偽り者　偽信者

ムスリムの皆様。クルアーンでは、様々な種類の人々に伝言されています。本日のホトバでは、これらのうち、偽信者をとりあげてみることにします。

偽信者とは、心から信仰してはいないのにもかかわらず、口先、あるいは見かけにおいては信者のように振舞っている人々を意味します。クルアーンでは次のように言及されています。「偽信者たちがあなたの許にやって来ると、『わたしたちはあなたが、本当にアッラーの使徒であることを証言する。』と言う。アッラーは、あなたが確かに使徒であることを知っておられる。またアッラーは、偽信者たちが真に嘘言の徒であることを証言なされる。」（偽信者たち章第１節）「かれらは信仰する者に会えば、『わたしたちは信仰する。』と言う。だがかれらが仲間の悪魔〔シャイターン〕たちだけになると、『本当はあなたがたと一緒なのだ。わたしたちは、只（信者たちを）愚弄していただけだ。』と言う。」（雌牛章第１４節）「かれら（偽信者）は、『わたしたちはアッラーと使徒を信じ、服従する。』と言う。」（御光章第４７節）

偽信者である人は、ムスリムの人たちの中ではムスリムと見なされ、そのように振舞われます。しかしアッラーの御許においては、決して信者と見なされない上に、信仰しない人々の中でも最も低いものとされます。クルアーンでは、「本当に偽信者たちは、火獄の最下の奈落に（陥ろう）。あなたはかれらのために、援助する者を見いだせない。」（婦人章第１４５節）とされ、彼らが地獄においても最も重い罰を受けるであろうということを示しています。

偽信者たちは、イバーダにおいても真摯ではありません。「かれらが礼拝に立つ時は、物憂げに立ち、人に見せるためで、ほとんどアッラーを念じない。」（婦人章第１４２節）偽信者たちは、己の利益を追求する人々です。「（かれらは）あなたがた（の戦果）を待っていた者たちである。アッラー（の助け）によってあなたがたが勝利を得た時は、（あなたがたに向かって）「わたしたちも、あなたがたと一緒だったではないか。」と言う。もしまた不信心者に有利な時は、（かれらに向かって）「わたしたちは、あなたがたを優勢にしてやったではないか。わたしたちは信者（ムスリム）からあなたがたを守ってやったではないか。」と言う。」（婦人章第１４１節）

ムスリムの皆様。偽信者たちは、信仰していないことに対し、心の安らぎを得てはいません。逆に、常に恐れと疑念のうちにあります。クルアーンでは、「背信者は、自分の心の中に抱くことを暴露する１章〔スーラ〕が下されることを警戒している。」（悔悟章第６４節）「あなたは、心に病ある者がかれらの許に走るのを見るであろう。かれらは、『わたしたちは災難にあいはしないかと恐れる。』と言っている。」（食卓章第５２節）と述べているのです。

偽信者たちは、聖戦に呼ばれた際も、言い訳をつくりだし、困難な状況や危険、リスクを伴うことを避け、戦いに加わりません。（悔悟章第４２～４３節）彼らは常に悪い方向に人々の注意を引き、醜いものを飾り立て、よいもののように吹聴します。美しいものを悪いものかのように見せかけ、人々が善行を行なうことを妨げます。（悔悟章第６７節）さらに、うぬぼれが彼らの確実な特質です。（偽信者たち章第５節）ちょうどイブリースが傲慢に、アーデムへのサジュダを拒んだように、真の信心を持てずにいることの理由の一つがこの傲慢さといっても誤りではないでしょう。心も、愛情も、良心もない、壁に並べられた材木のような存在です。（偽信者たち章第４節）虚飾に満ちた発言をし、皆に自分の発言を通します。宗教や信心が話題にされると、他の事を考えています。語られていることは、片方の耳から入り、もう片方の耳から抜けていくのです。（ムハンマド章第１６節）

しかし、このような、人間性に欠ける特質を持つ偽信者たちに対しても、悔悟の扉は開かれているのです。（婦人章第１４６～１４７節）　アッラーが私たちを、偽信者の災いからお守りくださいますように。